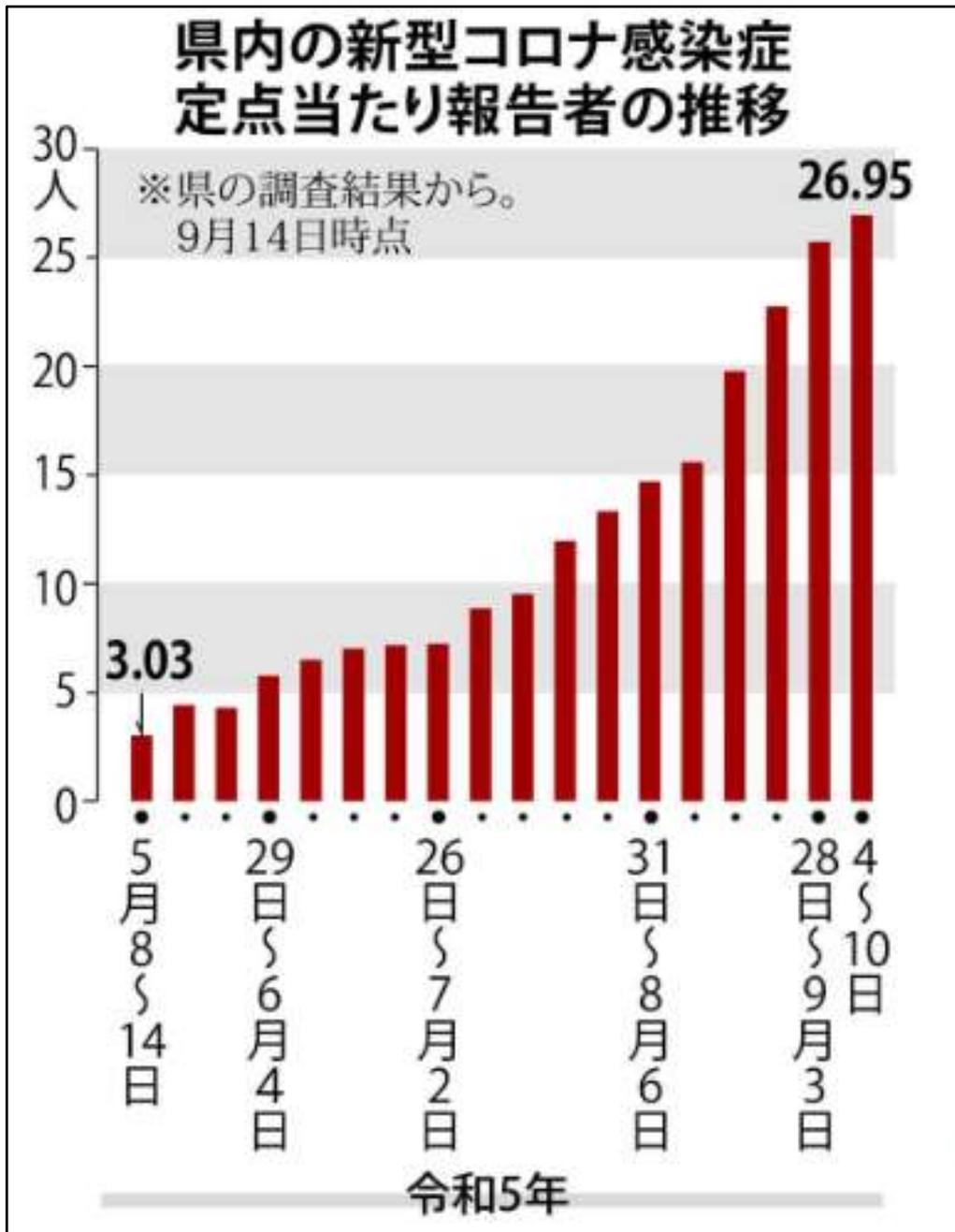


新型コロナ若年層で感染増加 埼玉県が警戒感

9/14 産経新聞

埼玉県内で新型コロナウイルス感染者の増加が顕著となり、県などが警戒感を強めている。県内261の定点医療機関から報告される新型コロナの感染者数は上昇傾向が続いており、直近の報告者も高い水準で推移しているからだ。県内では公立学校で学校閉鎖などが相次いでおり、県は若年層での感染が拡大している可能性もあるとみて、基本的な感染対策の徹底や重症化予防のためのワクチン接種を呼び掛けている。



新型コロナの感染症法上の位置付けが5類に移行後、定点当たりの報告者が初めて10人を超えたと県が発表したのは7月26日のことだった。その後、定点当たりの報告者は上昇を続け、直近では26・95人（9月4～10日）と3週連続で20人を超えた。年代別の内訳では、全体の4割以上を20歳未満が占めており、こうした状況を踏まえ、県は若年層の間で感染が広がっている可能性があるとして分析している。

県内では新型コ

ロナの感染増加に伴う公立学校での臨時休業も相次いでいる。

県教育委員会によると、13日時点で、県内の小中学校で、学校閉鎖や学年閉鎖などの措置を取ったのは合わせて137件（さいたま市を除く）。加えて、県立高校と特別支援学校で同様の措置に踏み切ったのは102件に上っている。

県立高校では、文化祭といったイベントの開催直後に学校閉鎖を実施したケースもある。県は14日、県立高校2校で新たに学校閉鎖を実施すると発表した。

とはいえ、学校現場で実施できる感染対策の選択肢はそう多くないという実態もある。県教委関係者は手洗いや換気などは実施しているとして、「基本的な感染対策を講じているのになぜ感染拡大が止まらないのか」と首をかしげた。

若年層の間で感染が拡大する中で、県は高齢者などの「ハイリスク層」の感染拡大を防ごうと、バスによる出張接種を県内の高齢者と障害者の施設で始めると発表した。大野元裕知事は13日、新型コロナなどの感染拡大防止に向け開催した会議の終了後、「若者の中で感染が拡大しているが、これが高齢者に広がるとより大きなリスクに直面することになる」との認識を示し、「場面に応じて適切にマスクを着用していただきたい」と呼び掛けた。(星直人)